

# 2018 年度 UPLB 演習報告

【9/2 - 9/22】 2018 先発チーム（愛称 BATCH 8） 「高度教養科目」等 履修学生

【9/10-9/29】 2018 後発チーム（愛称 BATCH 9） 「神戸グローバルチャレンジプログラム」



## 今年度も フィリピン大学ロスバニョス校にて 2チームによる 英語特別演習を実施しました！

フィリピン大学ロスバニョス校(UPLB)に3週間滞在して生きた英語を学ぶUPLB研修を、本年も9月に開催しました。先発チームは農学部2回生から大学院農学研究科1回生までの計16名で、9月2日(日)に関空を発ち、9月22日(土)に帰国しました。後発チーム(神戸グローバルチャレンジプログラム)は農学部と理学部の1~2回生計19名で、台風21号の影響による関空閉鎖というアクシデントのために、予定より1日遅れの9月10日に福岡空港からの出発となりましたが、UPLB滞在中に関空の復旧が完了し、9月29日(土)に無事予定通り帰国しました。

授業は毎日午前3時間、午後3時間の計6時間みっちりでした。Interactiveな授業で、先生がどんどん学生に意見を聞いてゆき、あるいは発表させます。日本とは異なるスタイルに神戸大生は最初は戸惑ったようですが、すぐに慣れ積極的に発言するようになりました。眠たくなる暇はなく、あっという間に6時間が過ぎていったようです。

授業が終わった後の夕方2時間は、Guided Interactionの時間です。これは、神戸大生4名程度のグループそれぞれに2名のUPLB学生がfacilitatorとしてつき、ショッピングモール、カフェ、レストラン、ボーリング場、ビリヤード場等好きなところへ行って遊びながら「生きた英語」を学ぶ、というものです。神戸大生は、レストランでのオーダーの仕方、店での質問と交渉など、日常生活に必要な英語を自然に学ぶとともに、底抜けに陽気なFacilitatorと交流する中で、彼らとの絆が深まって行ったようです。

夕食の後は、神戸大学が雇用したUPLB学生(Student Guardian)による特別レッスンの時間です。内容は自由で、学生が自主的にアレンジします。滞在期間の前半・中盤は、授業の宿題を見てもらったり、あるいは、日本人の苦手な発音(LとR, thなど)の練習相手をしてもらったり、ということが多かったようです。終盤には、閉校式で披露する英語劇の台本の添削、その予行演習等のサポートをしてもらいました。

そのほか、カラオケ大会、文化的施設の観光旅行、植物園・自然史博物館・IRRI(国際稲研究所)・有機農場の訪問など、盛りだくさんの企画を楽しみました。特にIRRIは、「緑の革命」を起こした「奇跡のイネ」を生み出した世界一のイネ研究所で、学生はその広大な研究農場を見学しながら現在行っている最先端の研究の説明を受けました。将来このような研究所で働いてみたいという希望をもった学生も少なからずいたようです。

帰国後も、参加学生とUPLBのStudent Guardian、Facilitatorとの交流は続いています。この国境を越えた絆は、参加学生の一生涯の宝物になることと思います。

(文責:農学研究科教授・演習担当 土佐幸雄)

●次ページに写真、参加学生のレポートなどを掲載しています。次回以降、参加を検討する際の参考にしてください。



2018 年度 先発チーム  
 (BATCH 8: 高度教養科目等)  
 (学生レポートは[こちら](#)から)



2018 年度 後発チーム  
 (BATCH 9: 神戸グローバルチャレン  
 ジプログラム)  
 (学生レポートは[こちら](#)から)

